第6回 航空機運航のDX推進に向けた検討会
議事概要（案）

日時: 令和4年3月3日（木）10:30 ～ 12:00 Web会議

＜1.開会 交通管制部長挨拶＞

今回は皆様から頂きました意見を取りまとめ整理しているので、これまでの内容を含めて、活発な意見交換をお願いしたい。

＜2.議事＞

① ご意見募集の結果

資料１を事務局から説明

② これまでの主なご意見

資料２を事務局から説明

○データ提供の枠組みについて、航空局からのデータには大変価値があり、民間のデータを航空局に受け渡し、相互利用できる枠組みがあればさらに価値が高まるのではないか。

○意見集約された内容に共感するところが多く、課題等が網羅されている。二次交通の情報が運航情報とつながり、航空会社や空港会社、お客様にとっても有用に活用ができると感じている。

○資料を拝見すると遅延に関する情報のニーズが高いと感じており、これら関連情報を出していくと良いのではないか。航空機の地上走行にかかる所要時間を要望されているものもあり、利用目的に従ってデータの出し方を整理するとよい。

⇒利用目的を深堀りしながら、整理していきたい。

○航空機の着陸予定時刻は空港利用者に提供される一方、駐機場への到着予定時刻が提供できればMaaSの発展にもつながるのではないか。将来的には国際航空便の利便性向上や運航品質の向上が達成できればと期待している。

○今回で、現状の課題抽出が一通りできたのではないかと感じる。目的は、航空会社や空港会社に対する働き方目線とお客様目線の２つに集約されると思われる。骨太の方針の整理に期待したい。

○地方空港、離島空港において、デジタル化が進むことは大変有益である。人手が不足し、資源も限られているため、今後のシステム設計においては、既存のアプリの流用など、簡単に利用できるような発想を期待している。

○毎年のように災害が発生しており、情報共有がリアルタイムにできないことが、共通の課題である。ここ数年の経験で得られた最低限の情報共有の方法について、早めに進めていけると国民としてもありがたい。負荷の軽いシステム環境を設けてトライアルをやってみてはどうか。

○災害時においてはコミュニケーションをどのように行うかが重要である。ステークホルダー間でコミュニケーションをとるアプリケーションなどが有益だと感じた。一般に使われているSNSの

ような仕組みがあっても有用ではないか。
○東日本大震災の時に多数の目的地変更の便を受け入れた一方、到着するはずだった目的空港ではダイバートしたことを知らされないまま待つ関係者もいたのではないか。空港は自分の空港内の情報しか持っていないため、他空港での状況を把握できるように情報を共有する仕組みがあると良いのではないか。

③今後の進め方について
資料３を事務局から説明
質疑は特になし。

＜3.閉会　森川座長＞
次回は、今後の方向性について事務局の方でまとめると聞いているので、引き続き皆様方からもいろいろなご意見を頂ければと思う。

以上